

# 協議会だより

DHA・EPA協議会  
〒151-0062  
東京都渋谷区元代々木町 32-7  
一般財団法人日本水産油脂協会内  
TEL & FAX: 03-3469-6931  
URL: <http://www.dhaepa.org/>  
E-mail: [dha\\_epa@par.odn.ne.jp](mailto:dha_epa@par.odn.ne.jp)

森永乳業株式会社 清水 隆司

## コーデックスにおけるDHA・EPAの状況

2017年も早いもので7月となりましたが、この7月にはDHA・EPAにとって重要な会議が開催されていることを御存じでしょうか？会員の皆様には詳しい方も多いと思いますが、国連の専門機関である国連食糧農業機関(FAO)と世界保健機関(WHO)が合同で国際的な食品規格を作るコーデックス委員会(国際食品規格委員会)の2つの部会で、DHA・EPAに関する検討が行われています。

その1つは、「コーデックス油脂部会(Codex Committee on Fats and Oils/CCFO)」でのFish Oils(魚油)の規格策定です。ここでは、各種魚油の名称と定義、脂肪酸組成の基準値、品質規格、添加物や衛生基準などが規定されます。本年2月にマレーシアで開催された第25回部会で策定作業は最終段階に達し、7月17日からスイスで開催される第40回コーデックス委員会(CAC)で採択される予定です。

一方、DHA・EPAのNRV-NCD(非感染性疾患のリスクに関する栄養参照量)を設定する作業が「コーデックス栄養・特殊用途食品部会(Codex Committee on Nutrition and Food for Special Dietary Uses/CCNFSDU)」で行われています。この検討は2016年の第37回部会から開始されていますが、私は幸運にも昨年12月にドイツで開催された第38回部会に参加する機会を得ましたので、その状況を簡単にご紹介します。

本件の議長国であるロシアとチリは、冠状動脈性心疾患等の心臓血管疾患との関連性を支持するエビデンスの存在を根拠として、250mg/dayのNRV-NCD案を提案しました。しかし、根拠としたエビデンスの多くが魚としての摂取による成績であり、これらの結果をDHA及びEPAによる効果として外挿することの是非等が議論され、最終的にはWHOの栄養指導専門家グループ(Nutrition Guidance Expert Advisory Group/NUGAG)が実施中の多価不飽和脂肪酸(PUFA)に関するシステマティックレビューの結果を考慮する必要があるとして、議論は延期されました。そして、このPUFAに関するシステマティックレビューの結果が報告される第11回のNUGAG会議が、クロアチアで7月3~6日の予定で開催されます。事前の情報では、DHA・EPAは心血管疾患のイベント及び死亡率に明確な影響を与えないとする結果が報告されるという話もありますが、予断を許さない状況です。

わが国では、DHAやEPAを機能成分とする特定保健用食品や機能性表示食品が数多く発売されており、その健康効果が広く認知されているだけに、250mg/dayという量のNRVとしての妥当性を含めて、その行方が気になるところです。今後の最新情報は、随時学術情報としてお知らせ出来ればと考えています。

《幹事会のうごき》 平成29年6月14日(水)15:00~17:00に一般財団法人日本水産油脂協会新館において平成29年度第3回幹事会が開催された。

- ・第20回通常総会に関わる経費、出席者等が報告され了承された。
- ・総会で幹事全員の再任が承認され、幹事会での役割分担が決められた。
- ・公開講演会の講師が決定した旨、報告があった。公開講演会については、後日改めてご案内を申し上げます。
- ・本年度実施の「研修会」について検討した。